

# COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

## 大幸薬品

4574 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2021 年 12 月 8 日 (水)

執筆：客員アナリスト

**角田秀夫**

FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**



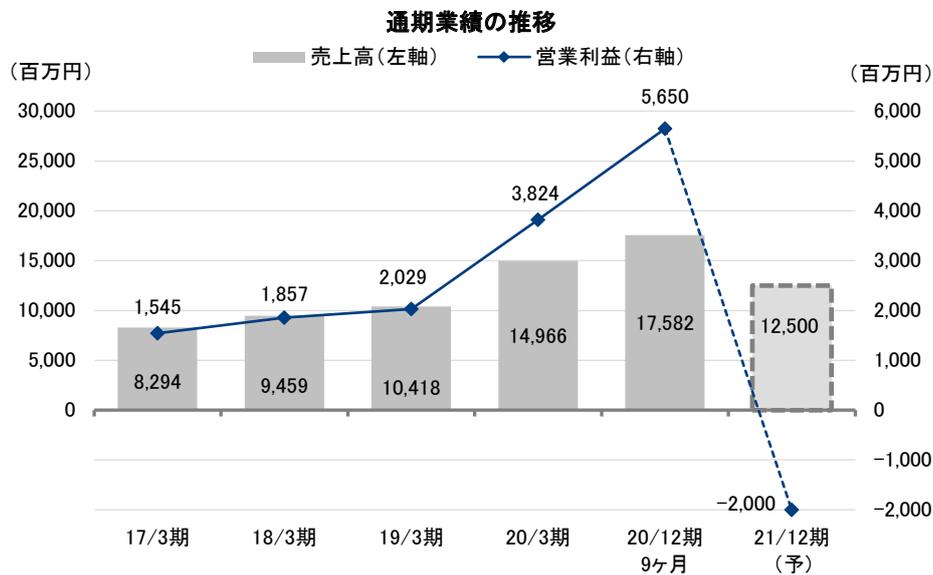
FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

## 業績動向

### 2021年12月期第3四半期はコロナ影響の反動により減収減益 第3四半期単独(7~9月)では黒字化

大幸薬品<4574>は、「正露丸」「セイロガン糖衣A」を中心とする医薬品事業と、ウイルス除去・除菌・消臭製品「クレベリン」シリーズを中心とした感染管理事業を展開している。



出所：決算短信よりフィスコ作成

2021年12月期第3四半期(1月~9月)は、売上高が8,355百万円(調整後前年同期比44.2%減)、営業損失が1,578百万円(調整後前年同期は4,786百万円の利益)、経常損失が2,389百万円(同4,611百万円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失が1,947百万円(同3,126百万円の利益)となった。感染管理事業の前年からの大幅減収とそれに伴う売上総利益の減少、同事業の棚卸資産の評価損により大幅な損失計上となった。

**大幸薬品** | 2021年12月8日(水)  
 4574 東証1部 | <https://www.seirogan.co.jp/ir/>

業績動向

売上高に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大（以下、コロナ禍）に伴い衛生管理意識が急激に高まり、感染管理事業が記録的な売上高となった前年同期と比較すると44.2%減となり反動減が顕著である。一方で前々年同期との比較では9.7%増の水準である。国内医薬品事業の売上高は2,257百万円（前年同期比13.9%減）となり、コロナ禍に伴う消費者の外出自粛及びインバウンド需要の消失が継続した。夏場の需要期の店頭回転も低調だった。止瀉薬市場シェアでは47.4%（2021年7月～9月）と横ばいであり、シェアNo.1は堅持している。海外医薬品事業の売上高は765百万円（同60.1%増）と中国向けが販売ライセンス更新に伴う出荷前倒しにより増収となった。主力の中国や香港での店頭消化はコロナ禍の影響から回復傾向である。感染管理事業の売上高は、5,327百万円（同55.1%減）となった。コロナ禍は完全には収束していない状況だが、日常的な感染対策の習慣化やワクチン接種による効果への期待、感染者数の減少等から、前期のような需要は当期においては発生しなかった。国内ウイルス除去市場シェアでは40.8%（2021年7月～9月）と前四半期比横ばいであり、シェアNo.1の地位にある。商品別では、主力である「クレバリン」及び日常除菌の商品群「クレベ&アンド」も前年同期比で50%を超える減少となった。一方で、秋冬シーズンに向けたドラッグ向け配荷は概ね計画通りに進捗しており、市場回復の兆しがある。

売上総利益は、感染管理事業の売上減少に伴う利益額の減少及び感染管理事業の販売予測の見直しに伴う保有在庫の評価減（1,642百万円）が影響し、大幅な減少となった。販管費に関しては、在庫保管量の増加に伴い運送費が増加したものの、広告宣伝費などのコスト圧縮に努めたことから販管費全体は327百万円減少した。結果として、営業損失1,578百万円の計上となった。セグメント利益では医薬品事業が1,009百万円の利益（前年同期比18.6%増）と堅調、感染管理事業は1,494百万円の損失（前年同期は5,076百万円の利益）だった。なお、営業外費用として生産調整に伴う操業停止関連費用を計上（637百万円）、特別損失として遊休金型等の減損損失（225百万円）を計上した。3四半期累計では大幅な減益決算となったが、第3四半期単独では、営業利益702百万円を計上するなど各利益は黒字に転換しており、生産及び在庫調整の効果がはっきり表れている。

2021年12月期第3四半期 連結サマリー

	調整後前期 (2020年1月～9月)		21/12期3Q (2020年1月～9月)		前年 同期比	21/12期 3Qのみ	変化要因
	金額	売上比	金額	売上比			
売上高	14,965	100.0%	8,355	100.0%	-44.2%	3,248	国内医薬品事業は、消費者の外出自粛やインバウンド需要消失の影響は継続。夏場の需要期の店頭回転も低調 海外医薬品事業は、中国向けは販売ライセンス更新に伴う出荷前倒しにより前年同期比で増収。中国や香港での店頭消化はコロナ禍の影響から回復傾向 感染管理事業は大幅な反動減。秋冬シーズンに向けたドラッグストア向け配荷は概ね計画通り進捗
国内医薬品事業	2,621	17.5%	2,257	27.0%	-13.9%	782	
海外医薬品事業	478	3.2%	765	9.2%	60.1%	278	
感染管理事業	11,858	79.2%	5,327	63.8%	-55.1%	2,187	
返品調整引当金計上後 売上総利益	10,519	70.3%	3,826	45.8%	-63.6%	2,344	感染管理事業の売上減少に伴い利益額が減少。販売予測の見直しに伴い、保有在庫の評価減（1,642百万円）を実施
販管費	5,732	38.3%	5,405	64.7%	-5.7%	1,641	在庫保管量の増加に伴い運送費は増加も、広告宣伝費などコスト圧縮に努めたことから販管費全体は327百万円減少
営業利益	4,786	32.0%	-1,578	-18.9%	-	702	販管費は減少も、感染管理事業の大幅減収や棚卸資産の評価損計上等によって営業減益
経常利益	4,611	30.8%	-2,389	-28.6%	-	348	営業外費用として、生産調整に伴う操業停止関連費用を計上（637百万円）
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,126	20.9%	-1,947	-23.3%	-	425	特別損失として、遊休金型等の減損損失を計上（225百万円）

注：調整後金額は、国内事業・海外事業ともに2020年1月～9月の数値。前期比は調整後数値により算出  
出所：会社資料よりフィスコ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

## ■ 今後の見通し

### 2021 年 12 月期業績予想は、売上高 125 億円、営業損失 20 億円 足元は黒字基調に戻っており、来期の回復に期待

2021 年 12 月期通期の業績予想は、売上高:12,500 百万円、営業損失:2,000 百万円、経常損失:3,400 百万円、親会社株主に帰属する当期純損失:2,800 百万円と今年 8 月の修正予想を維持した。前期 (12 ヶ月間に調整した参考数値) と比較すると、売上高で前期比 9,500 百万円減、営業利益で同 6,500 百万円減、経常利益で同 7,800 百万円減、親会社株主に帰属する当期純利益で同 5,900 百万円減と、前期業績及び期初予想を大幅に下回る見通しである。

医薬品事業の売上高予想は 4,320 百万円 (前期参考値は 4,337 百万円) と前期並みである。2021 年 12 月期下期以降は緩やかな回復を見込んでいたものの、夏場の需要はやや低調だった。第 3 四半期段階の通期売上高予想に対する進捗率は 70.0% (前年同期は 71.5%) であり、進捗はやや遅れるが挽回可能な水準である。

感染管理事業の売上高予想は前期比 52.6% 減の 8,170 百万円である。2020 年から半減する予想だが、2019 年の実績値 7,728 百万円よりも高い。第 3 四半期段階の通期売上高予想に対する進捗率は 65.2% (前年同期は 68.8%) である。秋冬シーズンのドラッグストア商談では順調に棚を確保している。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行やその報道の状況などが、店頭の消化を左右することになる。「クレベ&アンド」ハンドスプレーの新製品の拡販、二酸化塩素のコロナ不活化エビデンスの活用、業務用や海外向けなど新規販売チャネルへの注力などの営業・マーケティング施策は継続し、売上高計画の達成を目指す。

利益に関しては、棚卸資産の評価減や生産調整に伴う操業停止関連費用の計上を行ったため、通期予想においても大きな損失を予想する。一方で、抜本的な需要調整やコスト圧縮を今期中に実施しているものと見られ、弊社では、2021 年 12 月期の第 3 四半期単独では各利益が黒字であること (営業利益で 702 百万円) も踏まえ、来期以降の回復には期待が持てるものと考えている。

今後の見通し

## 業績の推移

(単位：百万円)

	売上高	前期比	営業利益	前期比	経常利益	前期比	親会社株主に帰属する 当期純利益*	前期比	EPS (円)	配当 (円)
12/3期	6,683	44.7%	515	-	558	-	482	-	12.41	5.0
13/3期	7,443	11.4%	1,120	117.7%	1,211	116.8%	1,037	115.2%	27.10	5.0
14/3期	9,947	33.6%	2,590	131.1%	2,683	121.5%	1,747	68.4%	45.31	8.3
15/3期	8,978	-9.7%	2,559	-1.2%	2,776	3.5%	1,770	1.3%	46.31	8.3
16/3期	8,327	-7.3%	1,347	-47.3%	1,307	-52.9%	840	-52.6%	21.74	5.0
17/3期	8,294	-0.4%	1,545	14.7%	1,407	7.7%	1,049	24.9%	25.48	6.7
18/3期	9,459	14.0%	1,857	20.2%	1,567	11.4%	1,094	4.3%	25.79	8.3
19/3期	10,418	10.1%	2,029	9.3%	1,885	20.2%	1,415	29.3%	33.00	11.7
20/3期	14,966	43.6%	3,824	88.4%	3,633	92.7%	2,453	73.3%	57.57	16.7
20/12期	17,582	60.3%	5,650	73.3%	5,454	74.7%	3,851	77.0%	89.18	25.0
21/12期(予)	12,500	-	-2,000	-	-3,400	-	-2,800	-	-64.24	0.0

※15/3期以前は「当期純利益」

 注：2020年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、20/3期以前の配当は遡及計算後の数値  
 出所：決算短信よりフィスコ作成

## トピックス

### クレベ&アンド ハンドスプレーの限定デザイン新発売 クレベリンの主要成分が、 一般的な除菌・消毒剤（次亜塩素酸ナトリウム溶液）の 200倍以上新型コロナウイルスを不活性化するという研究成果を発表

#### 1. クレベ&アンド ハンドスプレーの限定デザイン新発売：ファッションディレクター「Daichi Miura」がディズニープリンセスを描き下ろし

同社は、日常除菌ブランド「クレベ&アンド（クレベアンド）」のハンドスプレーの限定デザインを新発売した。デザインを担当したのは、ファッション、アート、イラストレーション等、多岐にわたって活躍するファッションディレクター Daichi Miura 氏。「リトル・マーメイド」のアリエル、「塔の上のラプンツェル」のラプンツェル、「美女と野獣」のベル、「アラジン」のジャスミンの4人のディズニーのプリンセスをモチーフに Daichi Miura 氏が描き下ろし、大人の女性にもマッチするパッケージに仕上がった。この他に「ミッキーマウス」「ミニーマウス」のバージョンもある。2021年9月より同社公式オンラインショップ「TAIKO Direct」、バラエティショップ、一部のドラッグストア、GMS、インターネット通販などで、数量限定で販売されている。クレベリンブランドでは同様のコラボ製品を数年前から手掛けてきており、購買層の多様化やブランドへの愛着の育成が期待できる。

## トピックス

## 2. クレベリンの主要成分（二酸化塩素ガス溶存液）が、一般的な除菌・消毒剤（次亜塩素酸ナトリウム溶液）の 200 倍以上新型コロナウイルスを不活性化するという研究成果を発表

同社は 2021 年 9 月、大阪府立大学生命環境科学研究科（山崎伸二 教授）との共同研究成果である、二酸化塩素の新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）に対する不活性化効果に関する論文が英文医学誌「Journal of Hospital Infection」に掲載されたことを発表した。本研究の結果として、クレベリンの主要成分である二酸化塩素ガス溶存液が、有機物存在下で除菌・消毒に広く使用されている次亜塩素酸ナトリウム溶液よりも 200 倍以上強力に新型コロナウイルスを不活性化することが示された。“クレベリン”ブランドのさらなる向上やコロナ制御に貢献することが期待される成果であると言える。

同社は二酸化塩素製品による空間除菌市場の草分けとして、業界をリードしてきた。2018 年には「浮遊ウイルス感染対策方法（特許 第 6055861）」の特許を取得し、二酸化塩素ガスが浮遊ウイルスを失活させる方法を開示した。その後も、2020 年に二酸化塩素の新型コロナウイルス感染阻止の機構を解明し、2021 年には新型コロナウイルスの武漢株及び変異 2 株（英国株、ブラジル株）の 99.99% 以上不活化を確認するなど、意義深い研究成果を発表してきた。同社では、さらなるエビデンスを集積し、様々な新興感染症に対する衛生対策において低濃度二酸化塩素の活用を提言する方針である。

## 株主還元

### 2021 年 12 月期の期末配当は無配予想 新市場区分「プライム市場」適合確認・選択申請へ

同社は、堅実な成長性を維持する事業展開と安定的な経営体力維持のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を維持していくことを基本方針とし、連結業績も反映した配当政策としている。過去 5 年間（2016 年 3 月期から 2020 年 12 月期）の配当の推移を見ると、配当金で 5.0 倍（年 5.0 円から年 25.0 円）、配当性向で 5 ポイント上昇（23.0% から 28.0%）と継続して株主還元を強化してきた。2021 年 12 月期は、配当金で年 20.0 円（普通配当部分は 3.00 円の増配）を期初に予想していたが、当期純利益が大幅な赤字見通しとなったことから、中間配当は「無配」、期末配当についても「無配予想」発表している。

東京証券取引所では、2022 年 4 月より「プライム」「スタンダード」「グロース」の 3 つに市場を再編する計画である。同社は 2021 年 7 月に、東証より「新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果について」を受領し、新市場区分における「プライム市場」の上場維持基準に適合していることを確認した。この結果に基づき、2021 年 10 月には、同社取締役会において、「プライム市場」の選択申請を行うことを決議した。今後は、東証が定めるスケジュールに従い、新市場区分の選択申請に係る所定の手続きを進める予定である。

#### 重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp